

いよいよ新年度になりました。先月号でも記載したように、私、宮島は、16年9か月の間、豊栄病院病院長の役職についていましたが、令和6年3月31日付けをもって退任し、4月1日から“新潟ブロック統括院長”に就任しました。なお、役職名は変更になりましたが、当分の間、今まで通りに豊栄病院で内科医師として働きますので、よろしくお願いいたします。後任は、3月まで副院長を務めていただいていた関慶一医師になります。就任のあいさつ文をいただきました。



写真は、4月1日に行われた、新入職員との面談式(入社式)の様子です。関院長が新入職員に歓迎のあいさつを行いました

「赴任して6年たちました。令和6年度から病院を取り巻く状況は大きく変わります。しかし医療の本質は変わりません。当院のキャッチフレーズは“やさしい病院づくりで地域医療を支える”です。やさしいとは地域の方々へ向けられることが第一ですが、そのためには職員にとって病院が生き生きと働き甲斐のある職場となるような環境作りが大事だと考えます。お互いの立場を尊重し理解し合い協調することは安心な医療提供にも重要です。その上で豊栄病院には行政や近隣の病院・診療所・施設の先生に関係者の方々、更には市民の皆さんと共に面として連携して、医療から生活を支えるという役割が期待されます。医療機関も地域社会の共通資源の一つです。私なりの”やさしい“の解釈で、つながり合う病院運営を行い、宮島前院長が築

いてこられた土台に少し積み増すことが役目と考えています。ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。」

年度が替わり、当院人事は私以外にも変更・移動がありました。長谷川事務長が退任し、上越総合病院から渡邊事務長が着任しました。渡邊事務長は、豊栄出身で、19年前には豊栄病院に勤務していました。次号であいさついただく予定です。病棟、外来師長・主任の昇進・移動などもみられ、新人看護師も加わり、多少病院がバタバタするかもしれませんが、患者さんのご迷惑にならないように心がけます。

また、神経内科、下村 登規夫(ときお)医師が常勤で勤務されることになりました。上越にある国立さいがた医療センターの病院長をされていた医師で、神経内科及び頭痛外来を開設いただくことになりました。自己紹介をしていただきました。

「はじめまして、令和6年4月1日付で、新潟県厚生連豊栄病院に神経内科医として着任いたしました下村登規夫と申します。出身は、山口県防府市で、父親が、薬局経営をしておりましたので、医学の道に進むことになった感じです(実際は、コンピュータ関連に進むつもりだったのですが)。兄が一人いる男2人の兄弟です。兄は、薬学部を卒業し、大学院を終わったら、厚生省、その後、東洋大学の教授をして、植物機能研究所を作り、薬剤師でなく研究者で過ごしてきた人で、元気に、農業をしております。わたくしは、上越市のさいがた医療センターで11年間の間院長をしたくらいで、あまり役には立っていないと思います。豊栄病院でどこまで頑張れるかわかりません。どこに行っても忙しいので、ここでも、「忙しくなるのかな」と思っています。趣味は、映画が好きで、ハリソンフォード、トミー・リー・ジョーンズは、ほぼ全話見ております。これから、よろしくお願いいたします。」

発行責任者・文責：豊栄病院広報係 宮島 透